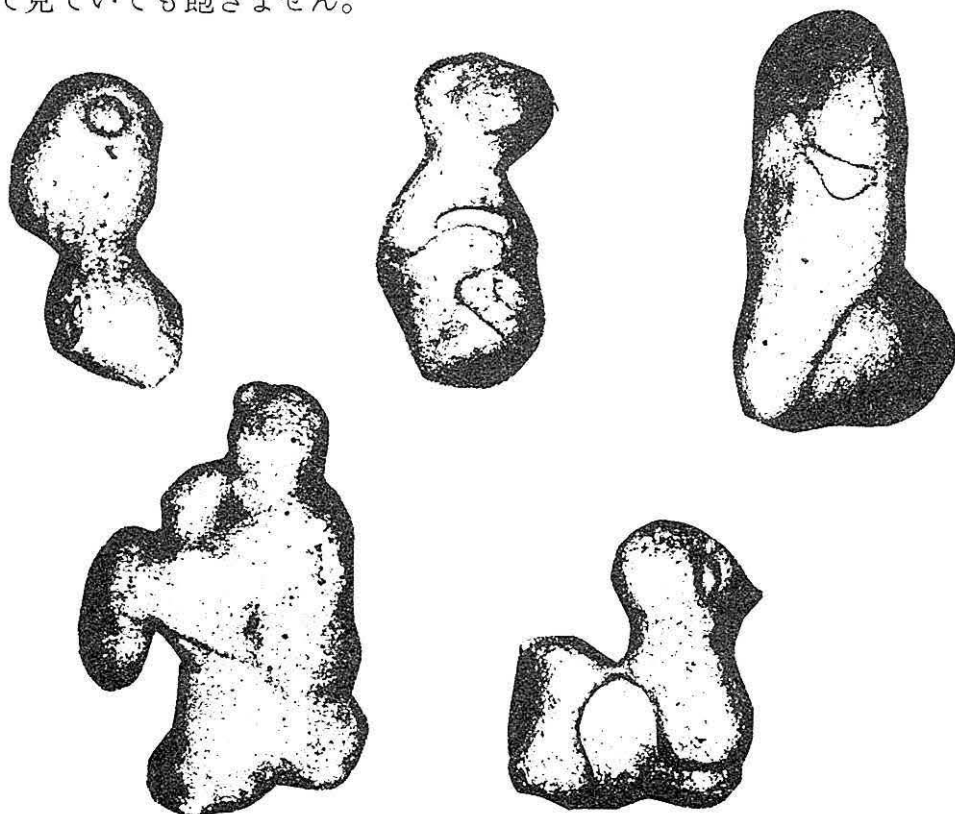


子ぶり石

石川県の輪島や七尾に行くと、みやげ物店などで時々図のような奇妙な形をした1cm～数cmの石を売っていることがあります。色は白～黄味がかっていて、特徴的な溝やくびれが見られます。

地元では、赤ちゃんが生まれる前のお母さんのお腹を想像して「子ぶり石」とか「子振り石」、仏様や観音様に見立てて「仏石」とか「菩薩石」などとも呼ばれています。その他にも色々な動物などに見立てる人もいます。本当に見れば見るほど奇妙な形をしていて、自然の造り出す形の不思議さにいつまで見ても飽きません。



いろいろな形をした子ぶり石

この石については、安永2（1773）年～亮和元（1801）年に出された木内石亭著の「雲根志」という本に「菩薩石」として紹介されたのが初めてのようです。鉱物としては、蛋白石（化学組成はシリカ=SiO₂）で、図鑑などでは「珪乳石」と書いてあるものもあります。子ぶり石を含む地層は、第三紀中新世（今から1,500万年程前）の珪藻というシリカの殻をもった1mmの10分の1以下程の大きさのプランクトンが堆積してできたものです。

一体、この奇妙な形の「子ぶり石」はどのようにしてできたのでしょうか。「子ぶり石」のでき方について書いてある書物は、いろいろ捜しても見つかりませんでした。でき方については、まだあまりわかっていないようです。

このような不思議な現象は、自然の中にたくさんあります。あなたも「不思議さ」を見つけてみませんか？

「子ぶり石」は今月から10月末までの予定で、科学文化センター2階のロビーに展示しています。自然の造形のおもしろさに触れて、どのようにしてできたのか考えて見て下さい。そして、いろんなアイデアをお聞かせ下さい。一緒に考えてみましょう。

（赤羽久忠）



富山市科学文化センター

〒939富山市西中野町1-8-31 TEL(0764)91-2123

平成8年9月1日